

水稻の7月下旬の巡回調査結果の概要

【東北信】 調査日 7月22, 23, 24, 25, 26日

＜東北信地域の調査ほ場（定点・巡回）：32地点＞

(1) 葉いもち

・計7調査ほ場で発病が確認された。発生地点の割合は平年に比べて低かったが、発生ほ場では7月中旬以降に急激に病斑が増加している。7月25日に注意報を発表し、注意喚起した。

(2) 紋枯病

・東信地域の1調査ほ場で発病が確認されたが、発病株率、発生地点の割合もともに平年に比べて低かった。

(3) 白葉枯病・黄化萎縮病・黄萎病

・調査ほ場内での発生は確認されなかった。

(4) ばか苗病

・上田地域の1調査ほ場で発生が確認され、また、調査ほ場の周辺でも散見された。

(5) ニカメイガ

・上田地域の3調査ほ場で発生が確認され、芯枯率は平年に比べやや高かった。

(6) ウンカ類・ツマグロヨコバイ

・ヒメトビウンカは、13調査ほ場で確認され、捕獲数は平年に比べやや少なく、発生地点の割合も平年に比べやや低かった。

・セジロウンカは、北信地域の1調査ほ場で確認された。

・トビイロウンカは確認されなかった。

・ツマグロヨコバイは、東信地域の4調査ほ場、北信地域の1調査ほ場で確認され、東信地域では捕獲数、発生地点の割合ともに平年に比べてやや高かった。

(7) 斑点米カメムシ類

・東信地域、北信地域ともに捕獲数、発生地点の割合が平年に比べて高く、優占種はアカヒゲホソミドリカスミカメであった。7月25日に注意報を発表し、注意喚起した。

(8) その他

・イナゴは、23調査ほ場で確認され、北信地域の1ほ場では捕獲数が多かったが、平均捕獲頭数、発生地点の割合は平年並みであった。

・クサキリ・ササキリ類は、19調査ほ場で確認され、上田地域では調査ほ場の全ほ場で確認されたが、平均捕獲数はほぼ平年並みであった。長野地域では捕獲数、発生地点の割合ともに平年に比べやや低かった。

・イネアオムシ(フタオビコヤガ)は5調査ほ場で捕獲され、頭数は1～4頭であった。

【中南信】 調査日 7月 23、24、25 日 <中南信地域の調査ほ場（定点・巡回）：39 地点>

(1) 葉いもち

・今回の巡回調査では発病を確認できなかった。

(2) 紋枯病、白葉枯病、黄化萎縮病、黄萎病

・今回の巡回調査では、発病が確認できなかった。

(3) ばか苗病

・2ほ場で発病が確認された。調査ほ場周辺でも、発病が認められるほ場もあった。

(4) ニカメイガ

・今回の巡回調査では、被害は確認されなかった。

(8) ウンカ類・ツマグロヨコバイ

・ヒメトビウンカは 21 調査ほ場で捕獲され、発生地点、捕獲頭数とも平年に比べやや少ない傾向であった。

・セジロウンカは 1 調査ほ場のみの捕獲で、発生は極わずかであった。

・トビイロウンカはいずれのほ場でも捕獲されなかった。

・ツマグロヨコバイは 13 ほ場で捕獲され、発生地点数、捕獲頭数とも平年に比べやや少ない傾向であった。

(9) 斑点米カメムシ類

・ホソハリカメムシが 7ほ場、アカヒメヘリカメムシが 3ほ場、トゲシラホシカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメが各 2ほ場で捕獲されたほか、周辺畦畔でクモヘリカメムシを確認できるほ場もあり、中～大型のカメムシ類が多く確認された。

(10) その他

・イナゴは 33 ほ場で捕獲され、発生地点率、平均捕獲頭数とも平年に比べ多い傾向であった。

・ササキリ類は 31 ほ場で捕獲され、ほぼ平年並みの発生であった。

・イネアオムシ(フタオビコヤガ)は、3ほ場で認められたが、いずれのほ場も捕獲頭数は 3 頭以下であった。



写真1 イネばか苗病（諏訪市）



写真2 クモヘリカメムシ（飯田市）



写真3 アカヒメヘリカメムシ
（上松町）